

「埼玉の舟運と現在も残っている河岸の歴史」
調査報告書

平成 27 年 3 月

彩の川研究会

はじめに

この報告書は、平成 26 年度に彩の川研究会が実施した『埼玉の舟運と現在も残っている河岸の歴史』調査の結果をとりまとめたものである。

埼玉県は、古来より川を利用した舟運が発達し、流域の発展に多大な影響を与え、人々の生活に密接に関連している。舟運の発達に伴い、その沿川には多くの河岸場や渡し場が開設され、地域の交通路として利用され、鉄道が敷設される明治中頃までは重要な輸送機関であった。

彩の川研究会は、国、県、市町村等への資料収集や現地調査を通じて舟運と地域の発展の歴史と文化を調べて「埼玉の舟運と現在も残っている河岸の歴史」を編纂することを目的に調査を実施した。これらの成果を国や県の関係機関に提供するとともに、県内図書館等に寄贈し、広く県民の「川への親しみ」や「川へのかかわり」と「河川事業への理解」を醸成するものである。

当研究会は、埼玉県在住の公益社団法人日本河川協会会員で構成されており、川にかかわる知識と経験豊富な会員の能力を活用して調査委員会(代表新井 勲)を立ち上げ、県土整備事務所所管区域をベースに、5つの班を編成して調査にあたった。調査活動に際しては、文献・資料、聞き取りおよび現地調査を実施して、個別の調査票にとりまとめた。

この報告書に手をふれることにより、埼玉の舟運と河岸の歴史を知り、「川へのかかわり」や川が生み出す地域の歴史を学び、県民・流域住民の方々が「川への親しみ」と「河川事業への理解」を少しでも深めていただければ幸いである。

彩の川研究会 会長

横 倉 輝 夫

「埼玉の舟運と現在も残っている河岸の歴史」調査報告書

目 次

第1章 調査概要	1
1-1. 調査の目的	1
1-2. 調査の内容	1
1-3. 調査実施体制	1
1-4. 調査の方法	2
第2章 埼玉の舟運と現在も残っている河岸のあらまし	4
2-1. 調査・整理件数	4
2-2. 舟運と河岸のあらまし	6
第3章 地域別の舟運と河岸	14
3-1. さいたま・越谷	14
3-2. 朝霞・川越	16
3-3. 飯能・東松山・秩父	18
3-4. 北本・本庄・熊谷	22
3-5. 行田・杉戸	24
資料編 (調査票)	26
さいたま・越谷	26
朝霞・川越	99
飯能・東松山・秩父	141
北本・本庄・熊谷	173
行田・杉戸	212

■彩の川研究会の調査研究実績

彩の川研究会は、埼玉県内を対象に治水・利水・環境および河川文化を学習し、彩の川の川づくりに寄与するとともに、あわせて会員相互の親睦を図ることを目的に、公益社団法人日本河川協会二種正会員のうち、埼玉県内在住の会員を構成員として、平成11年に、同公益社団法人の埼玉県支部組織として設立された。

設立以来、下記の調査研究を実施し、その成果についての報告書を取りまとめて、国や県の河川関係機関に提供するとともに、県内図書館等に寄贈し、県民の「川への親しみ」と「河川事業への理解」を醸成することに努めてきている。

〈彩の川研究会調査実績一覧表〉

年 度	調 査 研 究 内 容	備 考
平成11年	県内に残る「煉瓦造り樋管」についての調査研究	調査結果から3か所が土木遺産認定
平成12年	県内に残る「旧堤防」についての調査研究	
平成13年	同上	
平成14年	不老川および河川学習についての調査研究	
平成15年	県内に残る「川に係わる碑文」についての調査研究	
平成16年	県内の「碑文に見る川の歴史」についての調査研究	
平成17年	同上	
平成18年	県内の「川と祭り」に関する調査研究	
平成19年	同上	
平成20年	水防拠点としての「鎮守の森」に関する調査研究	
平成21年	水防拠点としての「鎮守の森・水塚」に関する調査研究	
平成22年	「川にまつわる郷土史」に関する調査研究	
平成23年	同上	
平成24年	県内の「親しみやすい水辺」に関する調査研究	
平成25年	埼玉県内の調節地等の役割と活用状況に関する調査研究	

●編集委員会

この報告書の編集は、彩の川研究会「埼玉の舟運と現在も残っている河岸の歴史」調査委員会のメンバーが編集委員会を開催してとりまとめた。

代 表 新井 勲 相談役 小林寿朗、木内勝司
委 員 浅見 優、池田秀生、石島 威、篠塚正行、杉山隆之
桑島弘治、宮田信一、横倉輝夫、山口文平

「埼玉の舟運と現在も残っている河岸の歴史」調査報告書

平成 27 年 3 月

編集 「埼玉の舟運と現在も残っている河岸の歴史」編集委員会
発行 公益社団法人日本河川協会 彩の川研究会

問合せ先 彩の川研究会事務局 TEL 090-7229-1934
〒338-0006 埼玉県さいたま市中央区八王子 3-14-6

※埼玉の舟運と現在も残っている河岸の歴史の調査研究は、公益財団法人河川財団による河川整備基金助成事業の助成を得て行った。

※※調査票で位置図として使用している地図は、(C)OPeNBook の許諾を得た。